

哲学カフェ

第四期はじめます

昨年一〇月の第三期六回で「哲学カフェ 問答連」を一応の区切りとすることをお知らせしました。この間、世話人で継続か終了かの選択を検討しました。結果は「継続」という結論になりました。引き続きご参加やご協力をお願い致します。

さて、これまでの取り組みを単に継続するのではなく新しい視点で臨む必要があると考えました。その点について少し説明（世話人の心積もり）をさせていただきます。

自由に話せるスタイルで哲学を・・・

これまで概ね、講師を含めて世話人が一定の「考え方」を提示し、参加いただいた方に感想や考えを述べてもらおうというスタイルで進めてきました。これは、議論の中心を明らかにすること、あるいは「知らなかったこと」を知ることは有利でした。しかし参加者が「自由に」話すことについては一定の「くびき」となる欠陥があったように思います。

「哲学カフェ 問答連」は本来参加者の「対話」をひびかせたことを目的としてきたことから考えるとい

やや強引な運営ではなかったかと考えます。

日常のテーマから哲学を・・・

「哲学」の原点に戻ってみようということですが、難しい言葉を振り回すことではなく、私たちが生きていく上で突き当たるテーマをもう一度見つめてみようということなのです。誰も日常的に突き当たっている問題があるはずなのですが、忙しさなどを理由に見過してしまっている、あるいは意識的に遠ざけているテーマがあります。そうしたテーマを改めて見直し対話を通して深めていくことが「哲学する」ことではないかと考えました。

やわしいテキストで哲学を・・・

具体的に次のような方法を模索します。従来から二回（五月と九月）のゲストの問題意識を受けて、参加者がそれぞれの考えに基づき「対話」をつむいでいくというスタイルは知的関心を喚起するために残しておきます。

世話人は「黒子」となり、参加者が「テキスト」から問題を拾い上げるといった方法を試みます。「テキスト」は難解なものではなく、五〜十分程度で読めるいわば「読み物」的なものを提示し、参加者のみなさんから自由に発想してもらおうということなのです。そして、世話人は「対話」を円滑にする役割に徹していきたいと思っています。そこでつむぎだされる「対話」は参加者の皆さんの一期一会的な出会いを作り出すはず

です。
テキストは毎回世話人が用意し当日お渡しします。手ぶらでお越しください。

第四期のスケジュール

1 五月十九日（土）

過去はどこへいっちゃったのだろうか？

2 六月二四日（日）

曜日が異なっています

人間は動物の中で特別なの？

3 *七月二八日（土）

「広場・公園・盛り場」

―場所と空間から都市の生活史を考える―

4 八月二五日（土）

どうすれば人は分かれるのだろうか？

5 *九月二日（土）

「心と身体」 ―気功の本質―

*印はゲストスピーカー

時間は
2時～4時
会場は
『ムーレック』



哲学カフェ

第四期第一回

過去はどっへいっちゃったのさろっ？

— 時間って何？ —



今回は、最初に、「子供の難問」（中央公論社）という本の中のテーマ「過去はどっへいっちゃったの？」を資料として使って、話し合いたいと思います。この本では、子供の疑問に答える形で、いろいろなテーマについて、さまざまな哲学者が二人づつ、一五〇〇字位の短い文章を綴っています。微妙に違う答えになっているのが面白いです。

テキストでは、どちらかといえば、過去のできごとが、どっへいっちゃったのか？を論じていますが、話し合いのテーマとしては、人間にとって時間とは？というところを中心に話し合えたらと思います。「時間とは何か？」は、哲学においても難問として知られます

が、まずは、それぞれが、自分にとっての「時間」（結局、生きること？）の意味について考えを深めたいです。ミヒヤエル・エンデの「モモ」は、時間をテーマとした、とても面白い児童文学ですが、個人的には、そこに出てくる時間銀行や、時間泥棒のお話をヒントに、考えてみたいと思っています。みなさんの時間に対する思いが聞けることを楽しみにしています。

（第一回 世話人 永井良和）

【テキストの一部】から

皆さんは昨日のランチに何を食べましたか？私は学生食堂で辛味噌ラーメンを食べました。もちろん、昨日のラーメンですから、すでに私の胃袋で消化されて、今は跡形もありません。

それでも、手に取った器の熱さ、舌を刺す辛味噌の味、などを思い出出すことができます。しかし、思い出されたラーメンの器は熱くも冷たくもなく、辛味噌の味は辛くも甘くもありません。私は昨日のラーメンを想起したのであって、知覚したわけではないからです。そもそも、食後の満腹感を思い出すたびに満腹になるのでしたら、食費は安上がりになること請け合いです。（過去はどっへも行かず「物語」の中に在る 野家啓一）



会場のご案内

哲学カフェ「問答連」の会場は、毎回「ムーレック」（左図）にて行います。参加費は、ワンドリンク（五百円程度）をお願いしています。

交通について

JR京都駅から（約三〇～四〇分）

市バス二六番『等持院道』下車。

市バス五〇番『北野白梅町』下車、徒歩約六分。

京阪三条駅から（約三〇分）

市バス一〇番『等持院道』下車。

市バス一五番『北野白梅町』下車、徒歩約六分

